

Title	胃切除術後の愁訴とその対策：胃手術後に苦痛を訴えている方のために
Author(s)	岩永, 剛
Citation	癌と人. 29 P.20-P.24
Issue Date	2002-03-31
Text Version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11094/23591">http://hdl.handle.net/11094/23591</a>
DOI	
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 胃切除術後の愁訴とその対策

——胃手術後に苦痛を訴えている方のために——

岩 永 剛\*

## はじめに

現在の日本において1年間に胃切除術を受けられる人は、約3万人以上で、10年間で30万人以上になる。この人達は、手術後にまったく自覚症状もなく元気に生活しておられる方もありますが、多くの人が何らかの訴えを持って毎日を過しておられる。これらの自覚症状を少しでも減らすような治療法を確立したいと願って検討したが、なかなか難しい。というのは、その訴えが起ってくる原因や、生理学的な変化などが複雑にからみ合っただけでなく、一人ひとりまったく異なり、多岐にわたっているために、一筋縄でいかないからである。

それでも、そのような方々に少しでもお役に立つようにと、先人が苦勞して行ってきた治療法・対策を列挙してみたい。

## 胃切除法の種類

胃切除術といっても、幾つもの種類がある。表1に示したように、胃を全部摘出するものから、胃の上部、中部、下部を切除するもの、楔状に切除するものまで（胃ポリープあるいは胃粘膜のみの切除は除く）がある。また、胃切除と同時に、周辺の臓器や組織（たとえば、食道、腸、脾臓、膵臓、胆嚢、リンパ節、血管、迷走神経など）を合併切除する場合もある。

さらに、胃などを切除した後の上部の消化管と下部の消化管をつなぎ合わせる方法も、無数といってよいほどの種類がある。その上、身体への反応、回復状態というのは個人差が大きく、術後の状況は千差万別となってしまう。

## 胃の機能消失による症状の発現

胃は、通常どのような働きをしているかについてはほぼ判明している。その胃を切除して機能が低下あるいは消失して生理学的異常状態が発現し、そのためにある症状が出てくるといった判りやすい模式図を画こうとしたが、それぞれの機能および生理学的状態がお互いからみ合っただけでなく、極めて複雑な図になってしまう。そこで判りやすくするためになるべく単純化し、主な項目のみを表2のように表現した。

## 自覚症状とその対策・治療法

表3に、自覚症状とその原因、治療法を示した。これも、さらに多種類のものがあり、とくに薬品名は、代表的なものを一般の方に判りやすいように商品名で記したが、これ以外にも多くのものがあることを付け加えておく。

「アルファ・クラブ（発行人：梅田幸雄氏、東京都港区新橋2-20 新橋駅前ビル1号館907号室）」という胃を切った人達および指導医達により毎月発刊されている『胃を切った人（胃と腸・療養ジャーナル）—ALPHA CLUB』という発行誌を、筆者も10年ほど前から愛読させていただいているが、胃切除を受けた人達には、いかに多くの訴えがあるか、また、それに対してそれぞれの方がいかに苦勞と工夫により克服しようとして涙ぐましい努力を重ねておられるか、ということに感じ入っている。（今回、この小文を記述しようという動機になったのも、このジャーナルに刺激されたからである。）

このジャーナルによく掲載される症状を表3に示し、併せて、その原因、治療法を記したが、その中の治療法に\*印をつけたものは、最近

\*藍野学院短期大学客員教授

4ヵ月間このジャーナルに掲載された貴重な経験である。各人がいかに苦勞し、それに立ち向かっておられるかの片鱗が判っていただけと思う。

おわりに

胃切除を受けた方々に対して少しでもお役に

立つようにと小文をまとめてみたが、最後に前記ジャーナルのアルファ・クラブ友の会の宣言をお借りして、まとめの言葉としたい。「胃を切った人は自らの努力と工夫で、術後の後遺症を克服してゆこう。そして普通の人よりむしろプラス・アルファ元気に長生きしよう。」

表1 胃切除法の種類

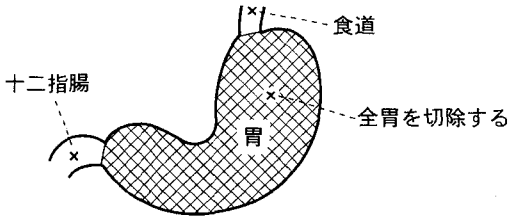
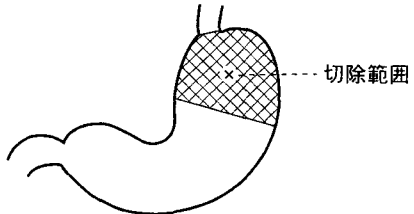
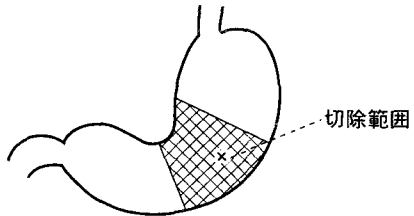
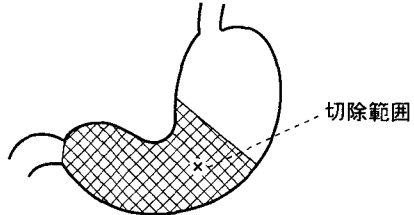
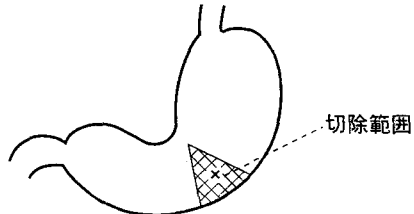
胃 切 除 法 名	模 式 図
胃 全 摘	
胃 上 部 切 除	
胃 中 部 切 除	
胃 下 部 切 除	
胃 楔 状 部 分 切 除	

表2 胃などの機能および胃切除によるその機能低下と症状

胃などの機能		(低下・消失)	生理学的異常状態	症状・疾患
摂食物の貯留			貯留量減少	食欲不振 食べられない
			残胃膨張	膨満感
摂食物の腸への排出機構			摂食物の急速腸内移動	下痢 ダンピング症候群 <sup>1)</sup> 牛乳不耐症 <sup>2)</sup>
逆流防止機構			胃液・腸液の逆流	胸やけ 胸骨後方の疼痛 嘔吐
胃粘膜からの外分泌	蛋白分解酵素の分泌		蛋白質の吸収障害	体重減少 体力減退 下痢
	胃酸分泌		消化管内の細菌叢変化	腹満 下痢 排ガス過多
			鉄の吸収障害	貧血 めまい
			カルシウムの吸収障害	骨粗鬆症 <sup>3)</sup>
胃粘膜からの内分泌	内因子		ビタミンB <sub>12</sub> の吸収障害	悪性貧血 <sup>4)</sup>
	ガストリン		胃酸分泌低下	消化不良
迷走神経・脾・膵・胆の機能			消化管運動異常	腹痛 膨満感 嘔気
			消化液分泌低下 栄養物吸収障害	下痢 低栄養状態 胆石症
			内分泌量減少	糖尿病
開腹術・吻合術の影響			吻合部狭窄	嚥下障害 膨満感
			癒着	イレウス

- 1) ダンピング症候群：食後に、発汗、頻脈、めまい、顔面紅潮、脱力感、眠気、腹鳴、腹満、腹痛、下痢、嘔気などが発現する。
- 2) 牛乳不耐症：牛乳飲用後に、腹満、腹鳴、痙攣、下痢などが短時間内に出現する。
- 3) 骨粗鬆症：カルシウムやビタミンDなどの吸収障害により、骨がもろくなったり、軟かくなって、腰痛や関節痛を訴えたり、骨折が起こりやすくなる。
- 4) 悪性貧血：血中には、大きく、ヘモグロビン量の多い赤血球が認められるが、全血中の赤血球数や、ヘモグロビン量は、減少する。症状として、倦怠、めまい、粘膜蒼白、舌の乳頭萎縮、四肢のしびれなどを訴える。

表3 胃手術後の症状とその対策（薬品名は商品名で表す。\*はジャーナル「ALPHA CLUB」に掲載されていたもの。）

症 状	原 因	治 療 法 ・ 対 策	
つかえ 嘔吐 胸やけ	逆流性食道炎など	1. 内服薬	①消化管運動改善薬：*ナウゼリン，アセナリン ②制酸薬：アルミゲル，マーロックス ③胃酸分泌抑制薬：タガメット，ガスター，オメプラゾール，*タケブロン，ガストロゼピン ④粘膜保護薬：アルカロイドG，アルサルミン ⑤臍酵素阻害薬：*フォイバン ⑥胆汁吸着薬：クエストラン ⑦漢方薬：*茯苓飲合半夏厚朴湯，*半夏瀉心湯
		2. 食品 摂取法	①*夜中の逆流時に，水分，牛乳の摂取 ②*梅干，*大根おろし，*飴玉 ③*食事中には，箸を置いて一休み
		3. 日常生活	①*便秘の予防 ②*就寝時に上半身挙上 ③*運動（登山，水泳，アスレチック） ④*静かに坐り続ける
腹痛 腹満 排ガス異常	亜イレウス 消化異常	1. 内服薬	①消化薬：ペリチーム，ガストロピロール ②消化管運動改善薬：ワゴスチグミン，パントシン ③ビフィズス菌・酪酸菌製剤：ラックビー，ガランターゼ，ビオスリーHi ④漢方薬：六君子湯，大健中湯，桂枝加芍薬湯
		2. 食品 摂食法 栄養補給	①*絶食 ②*乳酸菌食品 ③減圧チューブ（胃管，イレウス管）の留置 ④中心静脈栄養 ⑤水・電解質の補液 ⑥*よく嘔み，空気を飲み込まない
		3. 日常生活	①運動（*散歩，体操） ②*腹を両掌で右回りに100回以上撫で回す ③口でなく，鼻で息をする
		4. 手術	緩快しない時には，担当医と相談する
下痢	ダンピング症候群 牛乳不耐症	1. 内服薬	①自律神経遮断薬：バランス，フェノバルル ②鎮痙薬：エスベラン，ブスコパン ③局所麻酔薬：ストロカイン ④抗セロトニン薬：ペリアクチン ⑤抗ブラジキニン薬：ホモクロミン ⑥ソマトスタチン相似薬：サンドスタチン ⑦消化薬：パンクレアチン，モルマーゲン ⑧止痢薬：タンナルビン，アドソルビン ⑨漢方薬：柴苓湯，四君子湯 ⑩ラクターゼ製剤：ミルラクト

症 状	原 因	治 療 法 ・ 対 策	
〔「下痢」の 続き〕		2. 攝食法 食品 栄養剤	①よく噛んで、時間をかけて、少量ずつ、頻回に ②高蛋白・高栄養・低炭水化物食 ③液状食品を避ける ④間食により、全食事量を保つ ⑤半消化態栄養食を ⑥消化薬を食前と食後の2回に服薬 ⑦牛乳は加温して
		3. その他	①*歩く ②*術後期間の経過と共に軽快する
やせ 体重減少 脱力感	栄養障害	1. 内服薬	①食欲増進薬：*クアオルト ②消化酵素薬：(前述)食前にも ③消化管運動促進薬：*ガスモチン，*カナトン ④漢方薬：*六君子湯，*補中益気湯，十全大補湯
		2. 摂食法 食品 栄養剤	①高蛋白・高栄養食を ②液体栄養品 (*カロリーメイトなど) ③*こんぶ茶，*根こんぶ (醤油・タバスコ入り) ④*食事は少量ずつ、時間をかけて、頻回に ⑤経腸栄養剤の併用 (とくに，*経皮内視鏡的造 設術 (PEG) による栄養補給)
		3. その他	①*散歩
右上腹部痛	胆石症	1. 内服薬	①胆石溶解薬：ウルソ ②胆嚢収縮薬：アセナリン
		2. 手術	①胆嚢摘出術
腰痛 関節痛 こむら返り	骨軟化症 骨粗鬆症 カルシウム減量	1. 内服薬	①活性ビタミンD製剤：アルファロール，ワンアルファ ②カルシウム製剤：乳酸カルシウム，カルチコール ③ビタミンK製剤：カチーフN，ケイツー ④消化酵素複合製剤：(前述) ⑤漢方薬：麻杏薏甘湯，芍薬甘草湯，*補中益気湯
		2. 食品	①高カルシウム食品：小魚，牛乳，海藻類 ②栄養・電解質含有液：*ポカリスエット (こむら返りに有効)
		3. その他	①運動：散歩，体操
立ちくらみ めまい 動悸	鉄欠乏性貧血 巨赤芽球性貧血 (悪性貧血)	1. 薬剤	①鉄剤の服薬・注射：フェログラデュメット，フェジン ②ビタミンB <sub>12</sub> 製剤注射：カロマイド，レゾール ③ビタミンB <sub>12</sub> 製剤大量内服：メチコパール ④葉酸製剤内服・注射：フォリアミン ⑤漢方薬：人参養榮湯，当帰芍薬散，加味帰脾湯
		2. 食品	①高蛋白食品 ②増血作用食品：きも，あゆ，ごま，牛乳，ほうれん草，酵母など

これら治療法は、担当医とよく相談の上、行うように。